

RIETIセミナー

我が国における資源・環境問題に関する  
経済分析—水産業を例に

# 研究成果報告セッション(前半) コメント

2010.5.20 於RIETI国際セミナー室

山下東子(明海大学)

Yamaharu(a)meikai.ac.jp

黒倉壽氏「水産業界の歴史：国内  
における政策と産業の変遷」  
に対するコメント

# 歴史から何を学ぶか

1. 現代の政策(諸問題)は過去の政策(諸問題)の反復である
2. 現代の諸問題は過去の政策の失敗(不成功)から生じている
3. 過去には予想だにできなかったこと(資源、近隣)が現代には起こっている

# 質問とコメント

- 「政策」の対象はどこに置かれているか？（国際漁業秩序、遠洋漁場確保、沿岸漁業権、漁業者の民主化・・・）
- 大規模・遠洋・商業的漁業に焦点。沖合・沿岸漁業とのリンクは？（ニシン、マイワシ）
- 制度や漁業勢力の変遷は資源量・漁獲量の変動と相互に影響を及ぼし合っているのでは？

森田玉雪氏

「日本における水産エコ・ラベリング  
の発展可能性：インターネット  
サーベイによる需要分析」  
に対するコメント

# 研究の意義

- 日本で蓄積がない分野の新規開拓
- 周到な準備、大規模なサーベイ
- 多段階設問の設計、「一粒で〇度おいしい」
- 洗練された分析手法
- 意図した結果の導出（エコラベルWTP,その他の知見）と政策提言

# 質問とコメント

1. 回答者はどの程度母集団を代表しているか？バイヤスはどこで？
  - 標本そのもの(学歴、所得、パソコン)
  - 回答意思を持つ人の属性(魚に対する関心が比較的高い層)
  - プライマリーショッパーの属性
  - 団塊外しの意味(60歳)
2. 回答者の属性解釈は妥当か？(本文)
  - 男28:女72、で女性が圧倒的？
  - 女性は専業主婦が多いという予想と実際
  - 専業主婦と調理回数との関係
  - 年収と世帯人員、年齢区分との関係
  - 魚好きな回答者が協力

# 質問とコメント(続)

## 3. 仮想水産エコラベルの 目的と回答結果の解釈

- 適切に管理された漁場で獲られた魚
- 水産資源に関する消費者の危機意識(p. 4)
- 水産資源保護ラベルである(p. 20)
- 養殖ものにも適用。その条件は他の生き物への影響がないこと(p. 20)

## • 回答者が選ぶ鮭の種類への影響

- 「天然水産資源が危機だから、(天然は避けて)養殖(ラベル有り無し含む)ものにしよう」、と考えた人のプレミアム
- 天然水産資源の危機を知ったあと、水産資源保護とは直接関係しない養殖ものエコラベルを選んだ人の知識習得効果



# 質問とコメント(続)

## 4. 「養殖忌避がない」という新情報の価値

- 「天然ものであることは重要でない」、という結果(養殖の受け入れ)は業界にとっては朗報(抗生物質漬け)(p. 12)
- 「海外」産「養殖」刺身がおいしいという鮭の特殊性は効いているか？

## 5. 事例としての鮭の妥当性

- 国産と海外産の品質逆転
- 種苗放流の存在
- 母川国による管理
- ではほかのどの魚が妥当か？

# 質問とコメント(続)

## 6. 情報 $\beta$ を「信頼に足る情報でない」と位置づけた真意

- 意図したとしたら、採用文献は適切か？(フィクションでよいのでは？)
- 意図しなかったとしたら、なぜ当該文献に？
- 「信用できるもの」として取り上げなかったことの影響は？
- 英文発表時の苦情

## 7. 既存研究による補強

- 年齢別魚の消費量に関する研究(秋谷重男、水産白書)(日本の文献が皆無)
- 若い世代の有機不信、ラベル不信(既存研究？)
- 買い物頻度(岩成)
- 水産エコラベルの普及が遅れている原因(p. 27)は消費者側だけか？

# 質問とコメント(終)

## 8. WTP結果の実用可能性

- アンケートでは『少々高くても良いものを買いたい』と答え、店頭では安売りに走る消費者
- 外食、中食の魚にどう反映させるか
- ラベル代以上に転嫁された価格は誰が受け取るのか？
- 更なる分析の進展に期待(生産者側、流通コスト、鮮魚と加工品、資源保全効果)